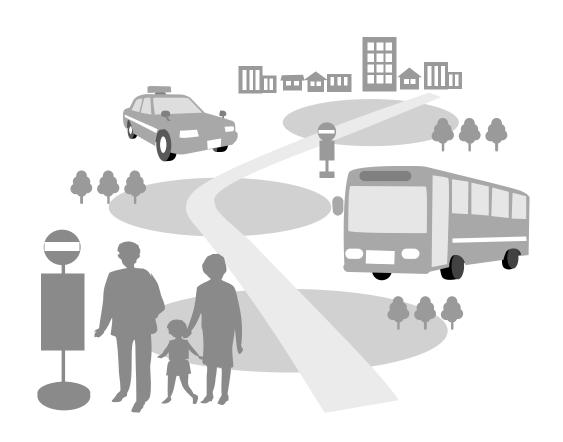
久喜市公共交通検討報告書



平成 23 年 12 月

久喜市公共交通検討委員会

第1章 検討の概要

1 検討の背景と目的



検討の背景と目的

平成22年3月23日、久喜市、菖蒲町、栗橋町及び鷲宮町の1市3町が合併し、新「久喜市」が誕生しました。

新「久喜市」は埼玉県東北部の中心都市として、すべての住民が安心して暮らせるまちづくり、 次世代に誇りを持って継承できる新しいまちづくりを実現するための取り組みを「新市基本計画」に示しています。

その取り組みのひとつとして、新「久喜市」の一体的かつ永続的な都市活動を支え、市民生活に不可欠な公共交通の確保を図ることが求められています。

また、急速に進展する少子・高齢社会への対応、深刻化する地球環境問題への対応、厳しい財政状況など、公共交通を取り巻く社会経済状況は大きく変化しています。

こうした合併に伴う変化や社会経済状況を踏まえながら、現在久喜地区内で運行されている市内循環バスを中心とした公共交通の再編のあり方について検討することを目的とします。

検討の位置付け

- 市民のための望ましい公共交通の方向性、バス交通網のあり方を示すものです。
- 本検討で示す基本方針を受けて、具体的な事業の実現を今後目指すものです。



検討対象地域は、久喜市全域とします。

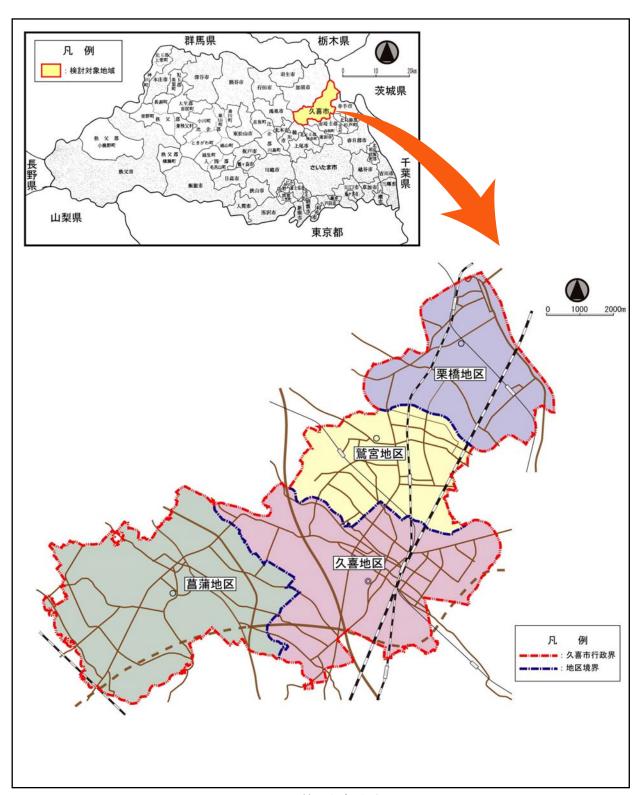


図 検討対象地域



第1章 検討の概要

本検討の背景と目的、位置付け、対象地域、流れを示す。

第2章 久喜市の現状

再編の前提条件となる上位・関連計画、交通発生に関わる人口等の動向、 主要施設などの都市特性、公共交通を主とした交通特性の現状を整理する。

第3章 市民ニーズ把握

市民の移動実態やニーズを把握するため、市民意識調査及び団体ヒアリング調査を実施する。

第4章 先進事例、近似事例の研究・検討

市町村合併により地域公共交通の再編を実施するなどした先進事例や近似事例の研究を行う。

第5章 久喜市におけるバス交通等に関する課題の把握

都市特性、交通特性、市民意識調査、団体ヒアリング調査に基づいて、バス交通等に関する課題を整理する。

第6章 久喜市における公共交通のあり方

久喜市における公共交通の基本理念、基本方針を整理する。

第7章 地域生活交通網の検討

久喜市における公共交通のうち、生活交通確保のための地域生活交通網の 検討の視点を整理し、地域生活交通網を作成する。

第8章 今後の事業の進め方

本検討で定めた基本方針に基づき、今後事業化するにあたって留意すべき事項や流れを整理する。

第2章 久喜市の現状

1 上位・関連計画



(1)新市基本計画

「新市基本計画」では、4つの基本理念を掲げています。

基本理念は、自然や環境問題に配慮し、あらゆる世代の人が安全・安心に暮らせるまちづ くりを「協働」の考えに基づき、市民を主役として進めていく考えを示したものです。

本検討は、この基本理念に基づき、安全・安心な暮らしを支えるひとつとして、公共交通 を協働により市民主役で検討していくものです。

■基本理念

基本理念

- ■共生を大切にするまちづくり
- ■協働のまちづくり
- ■安全・安心を重視したまちづくり ■市民主役のまちづくり

■将来像

「新市基本計画」では、まちづくりの基本理念を基に、市の将来像を以下のとおり定 めています。

将 来 像

豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市 ~人と愛、水と緑、市民主役のまち~

市の将来像を実現するため、主要な施策の体系的展開を図ることとしています。 公共交通については、「安全で調和のとれた住みよい快適なまち」の「②道路・公共交 通の整備·充実」が掲げられています。



- ①都市機能の整備
- ②道路・公共交通の整備・充実
- ③公園の緑化と水辺環境の保全
- ④上下水道の整備
- ⑤治水・防災・消防体制の充実
- ⑥防犯体制の強化
- ⑦交通安全対策の充実

■道路・公共交通の整備・充実の主要事業

道路·公共交通 の整備・充実の 主要事業

- ○新市の一体化を促す幹線道路の整備
- 〇生活道路の整備
- 〇人に優しい道路づくりの推進
- 〇公共交通の充実促進

(2) 合併協議

◆合併調整方針「合併協定項目 25-5 交通・防犯関係事業]

市内循環バス運行事業については、合併後に再編する。 久喜市の事業については、合併後1年以内に今後のあり方について検討する。

◆最終調整結果

久喜市の市内循環バス運行事業については、現行どおり存続し、公共交通機関をどのように新市において取り扱うか検討組織を設置して、廃止を含めた上で、合併後1年以内に検討する。

出典:豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市を目指して(資料編)

(3) 開発事業の状況

現在、久喜市内では以下の4つの開発事業が進行中です。

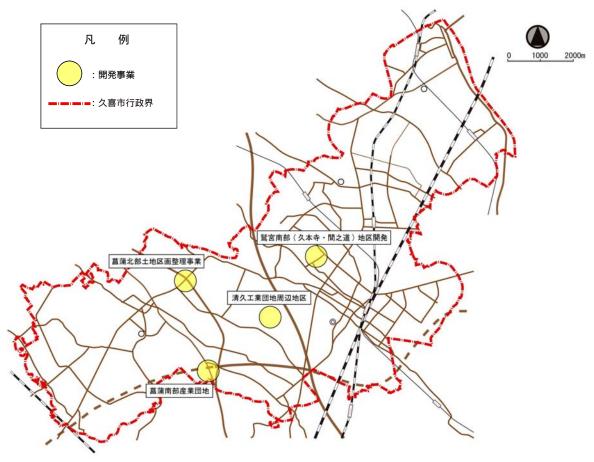


図 久喜市内開発事業位置図



(1)位置特性

久喜市は、埼玉県の東北部にあり、都心まで 50 km圏に位置しています。東は幸手市及び 茨城県五霞町、南は杉戸町、宮代町、白岡町及び蓮田市、西は鴻巣市及び桶川市、北は加須 市及び茨城県古河市と接しています。面積は82.4 km²、距離は北東から南西方向が約16.5 km、北西から南東方向が約7.0 km あります。

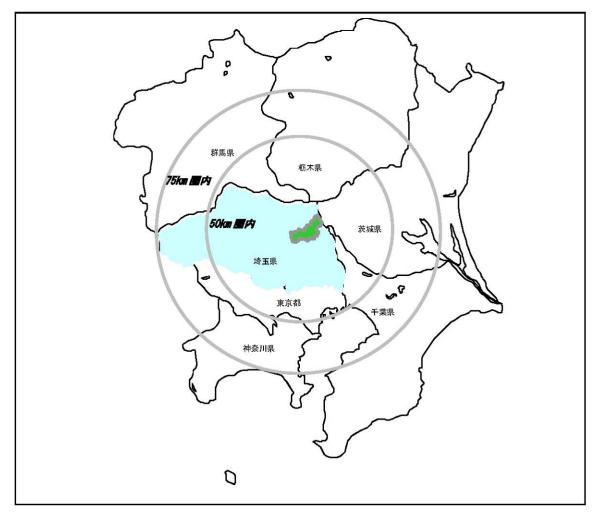


図 久喜市位置図

(2) 地形 • 気候

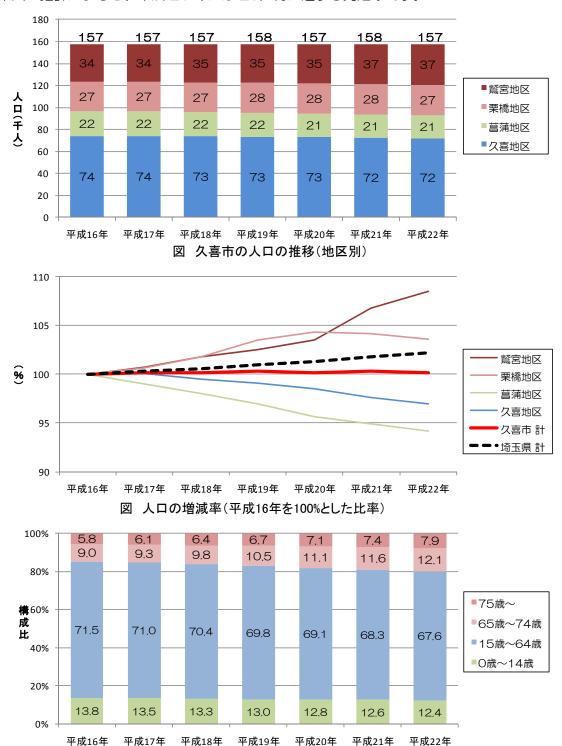
久喜市は、関東平野のほぼ中央にあり、市域全体がほぼ平坦な地形となっています。 気候は、夏は高温多湿、冬は低温乾燥で、内陸性の太平洋側気候に属しています。平均気 温は約 15℃、年間降水量は約 1,160mm です。

(3)人口の動向

①人口

総人口はほぼ横ばいで推移しています。地区別にみると、鷲宮地区は増加傾向にあります。また、栗橋地区は横ばい傾向で、久喜地区と菖蒲地区は減少傾向にあります。

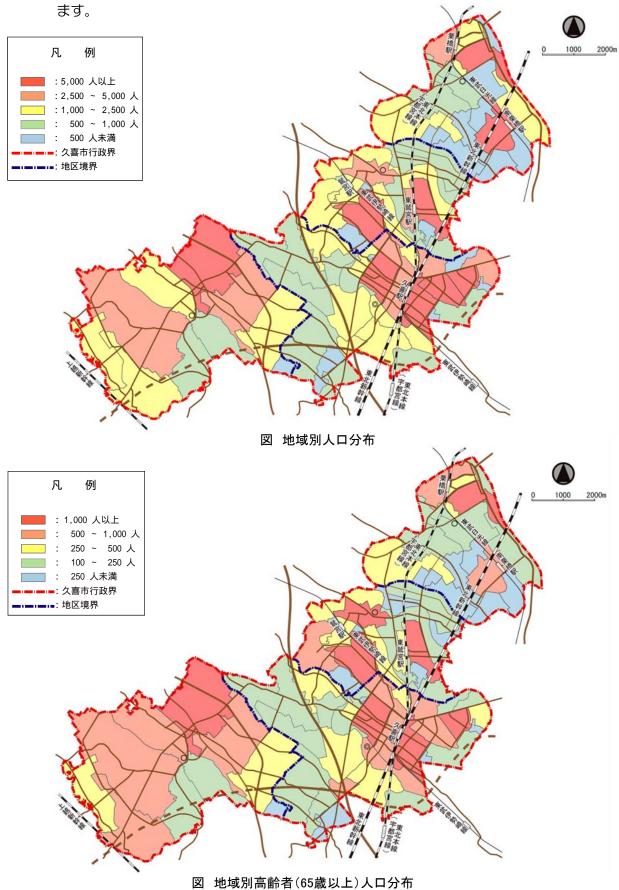
年齢別にみると、14歳以下人口と15歳~64歳人口の構成比は減少傾向にあり、65歳~74歳人口と75歳以上人口の構成比は増加傾向にあります。65歳以上人口の構成比(高齢化率)は、県全体19.6%に対して20.0%と若干高く、新市基本計画の将来人口推計によると、平成26年には25.0%に達する見込みです。



資料:住民基本台帳(平成16年~平成22年 各年1月1日現在)

図 年齢別人口構成比の推移

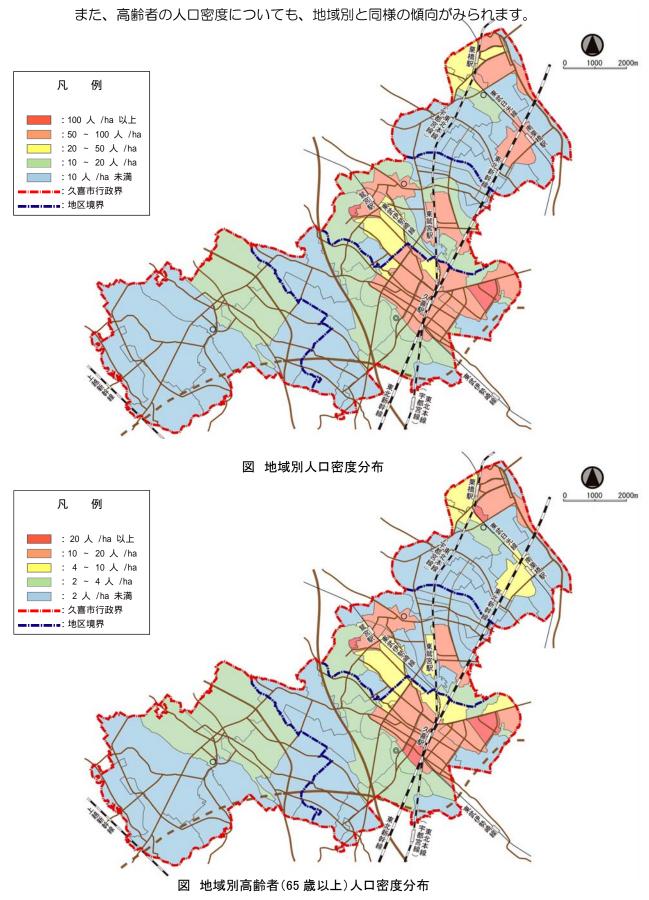
地域別に人口分布をみると、鉄道駅を中心とした地域と菖蒲地区北部地域で人口が集積しています。また、高齢者の人口分布についても地域別の人口と同様の傾向がみられ



資料:住民基本台帳(平成22年1月1日現在)

②人口密度

地域別に人口密度をみると、鉄道駅を中心とした地域と久喜駅から東鷲宮駅、久喜駅から鷲宮駅の鉄道沿線で人口密度が高くなっています。



③将来人口

平成 17 年の国勢調査人口を基に、コーホート要因法により推計した人口に、現在進行中の開発事業により見込まれる人口増加分を加えて、将来人口を推計しています。

総人口は、平成 12 年から平成 17 年にかけてわずかに増加しています。推計では、 平成 22 年まで増加し、その後は減少していくものと見込まれます。

また、年齢別人口は、出生率の低下と平均寿命の伸長により、年少人口の割合は、平成 17年の 13.4%から平成 31年には 11.1%まで減少するものと見込まれ、一方、高齢者人口の割合は、平成 17年の 16.4%から、平成 31年には 28.8%まで増加するものと見込まれます。

世帯数は、平成 17 年の 53,866 世帯から、平成 31 年には 63,037 世帯へと増加 するものと見込まれ、1 世帯当たり人員は、平成 17 年の 2.9 人から平成 31 年には 2.5 人へと減少するものと見込まれています。

表 人口・世帯数の見通し

2 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7						
		平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 26 年	平成 31 年
総人口		154,292 人	154,684 人	159,130 人	157,434 人	154,855 人
年齢別人口	年少人口	23,379 人	20,794 人	19,274 人	18,655 人	17,266 人
	(15歳未満)	15.2%	13.4%	12.1%	11.8%	11.1%
	生産年齢人口	110,988 人	108,508 人	107,648 人	100,081 人	93,053 人
	(15歳~65歳未満)	71.9%	70.1%	67.6%	63.6%	60.1%
	高齢者人口	19,832 人	25,328 人	32,208 人	38,698 人	44,536 人
	(65歳以上)	12.9%	16.4%	20.2%	24.6%	28.8%
世帯数		50,459 世帯	53,866 世帯	60,727 世帯	62,216 世帯	63,037 世帯
1 世帯当り人数		3.1 人	2.9 人	2.6 人	2.5 仏』	典:新市基本計画
山兴,机川左个司巴						

4流出人口

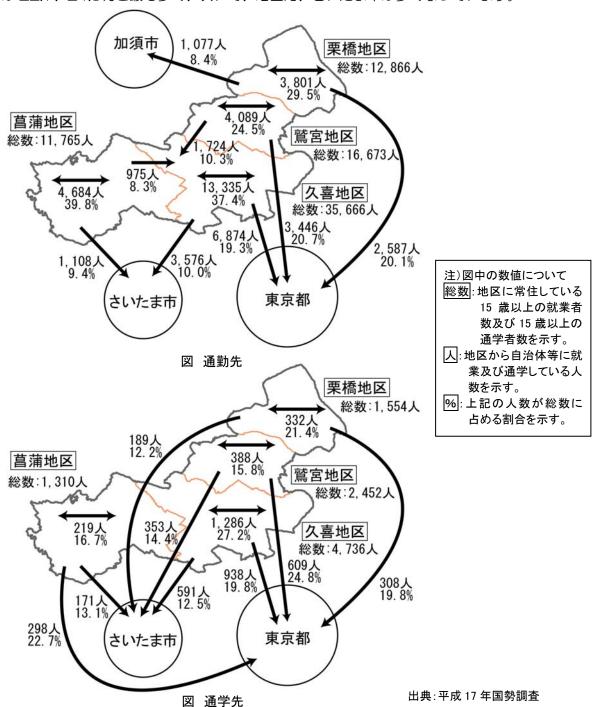
各地区からの通勤・通学先について、上位3位まで整理しました。

(ア)通勤(15歳以上)

久喜地区は地区内に通勤する人が37.4%と最も多く、次いで、東京都、さいたま市が多くなっています。菖蒲地区も地区内に通勤する人が39.8%と最も多く、次いで、さいたま市、久喜地区が多くなっています。栗橋地区も地区内に通勤する人が29.5%と最も多く、次いで、東京都、加須市が多くなっています。鷲宮地区も地区内に通勤する人が24.5%と最も多く、次いで、東京都、久喜地区が多くなっています。

(イ)通学(15歳以上)

久喜地区と栗橋地区は地区内に通学する人が27.2%、21.4%と最も多く、次いで、東京都、さいたま市が多くなっています。 菖蒲地区と鷲宮地区は東京都に通学する人が22.7、24.8%と最も多く、次いで、地区内、さいたま市が多くなっています。



(4) 主要施設の分布

公共施設は、鉄道駅、市役所・総合支所等を中心に分布しており、人口集積がみられる地域の分布とおおむね整合しています。久喜地区には平成23年4月に開院した厚生連久喜総合病院、栗橋地区には済生会栗橋病院があります。

資料:新・久喜市暮らしのガイドブック

- 13 -

